

協議テーマに係る意見書の提出について（環境保全・ごみ問題委員会）

意見書を次のとおり提出するものとする。

令和3年2月4日提出

環境保全・ごみ問題委員会

委員長 内田千晴

市川芽依

伊東里彩

加藤公央

高田悠真

竹原柊馬

田中麗楽

濱田稔由

松井美紗

三宅悠愛

山内千暖

意見書（環境保全・ごみ問題委員会）

当委員会の所管事項に関し、高校生の視点から、以下の項目について提案するものです。

記

1. プラスチック製品の使用削減について市の明確な目標を定め、その内容や施策、達成状況などについて、市民の目に留まる方法で分かりやすく発信するとともに、マイバックやマイボトル、マイ箸の利用促進など、「ごみを発生させない」という市民一人ひとりの意識向上につながるような具体的な取り組みについて周知啓発を行うこと。また、周知啓発にあたっては、学校で環境問題について考える機会を設けたり、飲食店等の企業と協力して行うこと。
2. プラスチックごみ等の発生を抑制するため、箸、ストロー等の有料化に向けて幅広く企業と連携するとともに、繰り返し使用できる容器等を用いて買い物をした利用者が割引を受けるサービスの導入など、ごみの削減を進める企業活動を支援すること。また、市民に対し、環境にやさしい店舗を地図で示したエコマップやポスター、アプリの活用など環境施策に積極的な企業の利用促進を行うとともに、スタンプラリーなどのイベントの実施、小・中学校、高等学校でのポスター作製など、市内全域の市民と企業を巻き込んで、協力してごみを削減できる仕組みをつくること。
3. ペットボトルのリサイクル率向上のため、デポジット制のペットボトル回収箱の普及促進など、ペットボトル回収の取り組みを強化するとともに、エコポイント制度の導入やグッズの配布、リサイクル強化週間の設定など市民が環境問題に興味を持ち、継続して取り組む仕組みをつくること。
4. 高齢者や障害者などごみ出しが困難な世帯を支援するため、ボランティアを募り、高校生などの若い世代も含めた地域での助け合いの仕組みづくり、アプリや電話を使ってごみ出し支援を依頼できる仕組みの導入、遅い時間帯でもヘルパー等がごみ出しできる時間設定など、サービスをさらに充実させる取り組みを検討すること。

以上、意見書を提出します。

令和3年2月4日

四日市市議会高校生議会

四日市市議会宛

【ごみの削減に向けた取り組み】

○プラスチック製品の代用の明確な目標、市民へ伝える。意識の改善への取り組み（学生へ情報を広める）

理由中国では2020年1月20日にプラスチック禁止に関する計画を発表した。その中には、使い捨てストロー、生分解性でないレジ袋の禁止などがある。しかし、四日市市環境計画は、少ししかプラスチックに触れていない。したがって目標を明確にし、市民へ伝えることが必要だと思う。これは同時に意識の改善にもつながると思う。日本はプラごみの輸出量が世界一の国であることなど、私達は自分の住む場所の負の結果すら知らない。逆に、最新式シャフト炉式ガス化溶融炉（プラスチックなどを1700℃～1800℃で処理し、発電につなげる）の導入のことなども知らない人が多いと思う。そこで学生に今回のような機会を準備し、プラごみについて知ってもらい親や自分の学校に広めてもらうことも意識改善につながると思う。

→市の明確な目標を定め、年単位でその目標を達成したか、一人当たりどれだけの削減をしたかなどの書いてあるものを学校、家庭に配布し、一人ひとりの意識を高めてもらうとよいと思う。

特に、マイボトルの利用促進に力を入れ、ごみ問題がどのような問題を引き起こしているか具体的に知ってもらう機会を学校でもうけると意識が変わると思う。

→市民はもちろんのこと、市内の飲食店などに協力を求めるのも一人ひとりの意識向上につながるのではないかと思う。

→チラシなどにすると最終的にゴミになってしまう可能性があるから、発信の方法はホームページやテレビCMのほうが良いと思う。

→“意識向上”同市民の意識を変えるのか？人事と考えている人が多いと思う。回覧板など見ても“ふーん。”で終わる人が多いと思うから。

○ビニール袋やペットボトルなどのポイ捨て禁止のポスターを製作する。

理由リサイクルすることも大切だが、リサイクルするのにも費用がかかる。まずは一人一人にポイ捨てをしないという心がけが大切だと思うからである。

→ポスターは、ポイ捨て禁止やリサイクルの呼びかけをテーマのものを大勢の人が見える所に貼るといいと思う。

→小学生や中学生、高校生を事業対象にしてポスター作りに協力してもらうのはどうか。

→ポスターは小・中・高の学生が描くとより効果的で子どもたちの意識も高まると思う。

→ポスターの活用は、市内の小・中学生、高校生から募集するといいと思う。

○マイボトルの推進（企業内、公共施設内では自動販売機ではなく給水機、給茶機を設置、飲料の販売時に、水筒、タンブラーなど持参で割引き、増量、ポイントがつくなどのサービスを行う）

理由三重県の調査（「ごみゼロ社会」をめざす県民アンケート結果報告書（平成20年3月（pref.mie.lg.jp/common/content/000153642.pdf 参照）によると、だいたい意味のわかる言葉はどれですか？という問いで、リサイクルに○をつけた比率は92.9%なのに対してリデュースは21.7%と認知度が低く3Rの中で最も取り組むべきとされているリデュース（発生抑制）行われていないと感じたから。マイボトルを持つことでペットボトル飲料を買う機会が減り、プラスチックごみの削減につながる。

○MYストローを各自持参する。

理由スターバックスやマクドナルドなどストローを使用する機会はとてまたくさんあり、それを無くすことによりストローのゴミを一気に減らすことができるし、最近は洗って何度でも使えるストローが売られているのも見かけるから。

○飲食店などでわりばしを使わず、洗えるはしにする。スーパーなどでのわりばしの有料化というような取り組みを行う。⇒日々マイはしを持ち歩く。

理由飲食店などに行った時、わりばしなどを使っている所をまだ見かける。最近は、リデュース（ごみを発生させない）の取り組みによってか、わりばしを使用するお店がへってきた。でも、まだ使っている所もあるので、そこを徹底するのもよいと思う。そして、スーパーでお弁当を買った時に、もらうわりばしも「マイはし」を日々持ち歩けばもらう必要がなくなる。割りばしの有料化はごみをへらすことにつながると思う。

○小さくて持ち運びしやすいエコバッグを無料で配布したり、ペットボトルを回収するために、持ってきてくれた人に何か生活で役立つものを配布する。

理由勉強会の意見を読んで、私たちが一人一人の意識で減らしやすいプラスチックごみはとても身近なレジ袋やペットボトルだと思ったので、かばんに入りやすい小さなエコバッグを配布したり、リサイクルをするとき持ってくる人も得できるような仕組みができれば、少しでもごみを減らせるのではないかと思う。

→継続して取り組むためには、身近なところにリサイクルを意識するようなものが必要だと思うため、グッズの配布やリサイクル強化週間などをして定期的に思い出してもらえるようにするとよいと思う。

○マイペットボトルを持ち歩き、飲みものの自動販売機があった場所に、ペットボトル専用のサーバーを置き、お金を払うと、そのペットボトルに飲み物をそそぎ込むことを提案する。

理由このシステムにすれば、ペットボトルが捨てられる機会が減り、プラスチックごみの量が少なくなると思う。

○ゴミ拾いのボランティア活動を行う。

理由一人一人がこの問題について向き合っていく必要があると思うので少しでも削減するため。

【ごみ削減に向けた市民参画の取り組み】

○私は、地域の取り組みに市民全員が参画できるような活動として、まず四日市市のエコMAPの作成を提案する。内容としては環境に配慮した飲食店などのお店を表示（目立った取り組みがあればそれも表記）することや、マイボトル活動の促進として水やお茶を入れられる場所を設けて、それをMAPに組み込むことなど。エコMAPは駅や市役所で設置・配付するほか、簡易的なwebサイトを作ったり、SNSでの周知講座を開いて配付するなど相互的な情報の共有が求められる。

理由市民が、環境問題に貢献できない場合、その理由の大部分は”知らないから”であると私は考える。例えば知っていたとしてもイベントなどでは予定が合わなかったり、友人や家族などが知らないとどうしても尻込みしてしまう。このことから私は、個人の生活に合わせて気軽に取り組み

てしかもお得な情報も盛り込んだエコMAPの作成を提案する。私自身、テイクアウト商品を買う際、タッパーを持っていけば割引してくれる店でずっと普通に商品を購入していたり、マイバック割引のあるのをずっと知らずにいたことがあり、とても損をしてしまった。エコMAPは、市全体を作るのは大変でもまず駅周辺、商店街などお店の多い場所から作り、クーポン券をつけたりすれば、お店のPRや街のさらなる発展に繋がるし、お店と市民、両者の環境に対する意識も変わっていくと思う。10代後半～20代などにはSNSでの拡散をし、MAP以外にもイベント情報やボランティア活動の呼びかけをし、子供とその親、高齢者を対象に講座を開き、リサイクルに関する正しい知識の共有や、それに対する”生”の意見を聞くことでさらなる改善をし、その中で地域の結びつきを強めることもできると思う。

→エコマップやポスターを、スマートフォンのアプリなどにも活用して、誰でももっと使いやすいようにすると思う。

→スタンプラリーなどを実施し、関心を持ってもらうのもいいと思う。

○商品の包装をプラスチックやポリ袋をなるべく使わないものにする。また、刺身などのトレーがいない人は皿を持っていくシステムのあるお店をもっと増やし、ポスターなどの掲示でより多くの地域の人にその存在を知ってもらえるようにすること。

理由プラスチックのものをリサイクルしようとしても、多額の費用が掛かり、外国のリサイクルの原料の行き場もなくなっているため、まずごみを発生させないリデュースが必要だと思ったから。今では、自然にかえるレジ袋が開発されているが、レジ袋が完全に土に還るまでに180日かかり、さらに国内のレジ袋の年間使用枚数は300億枚を超えていると言われるため、そのための場所の確保も必要となり、そのような新しいつくられたものを頼る前に、いかにプラスチックのもの、レジ袋を使わないようにするかが、大前提なのではないかと思ったから。

○ビニールと同じようにストローなどのプラスチック製品も有料化する。

理由歯磨き粉や洗顔のスクラブにもプラスチックが使われていてそこを無くすことも良いと思ったのですが、時間がかかると思うため、ストローなどを有料化したり紙ストローに替えたりする必要があると思ったからである。

○企業へゴミ削減につながるような売り方の提示、推奨（野菜果物などのバラ売り、裸売り）、詰め替え用商品のおすすめ、リサイクルボックスの設置、容器・トレーなどの再使用、再利用、肉のノントレー包装）

理由 欧米などでは、裸売りが一般的であり、包装をしないためごみの削減にもなり、好きな数を購入できる。どの取り組みも大量生産、大量消費、大量廃棄によるごみの増加を抑制する手段だから。ただし、野菜、果物の裸売りはコロナによる影響、肉のノントレー包装は抵抗感などがあり、すぐに導入していくのは難しいものもあるため、社会の変化に応じて徐々に取り入れていくことが必要。

→サービスの導入には、大手企業と連携するほうが良いと思う。

【リサイクルできるごみの回収】

○ペットボトルの回収代行の導入
ペットボトルのリサイクルによるエコポイント導入

理由 今の日本の状況下では「ペットボトルをなくす」ということは不可能に近いと思われる。また、今の段階でペットボトルのリサイクル率は9割近く、外国と比べ高いが、再生される割合は1割程度にとどまっている。そこで、ペットボトルの回収を代行することによってリサイクル率の上昇をはかろうと考えた。しかし、ただ代金を払ってペットボトルを回収してもらっただけなら利用する人は増えないと思う。そこで、エコポイントの導入を提案する。エコポイントの内容はペットボトル5本で1ポイント（1ポイント1円）で市内のスーパーマーケットその他で使えるようにすれば利用者は無料で利用が可能。回収者はエコポイントがもらえるという関係ができ、自然とペットボトルのリサイクル率のさらなる上昇につながると思うから。（引用：sankeibiz.jp）

→ポイント制度は、どの店で使えるのか、四日市全体で考えないと市民の意識は変わらないと思う。

→ペットボトル回収の取り組みを強化するために、飲み終わった容器をごみ箱に捨てると一つにつき10円貰えるという機械をもっと普及させること。

【高齢者等のごみ出しに関する問題】

○さんあ〜で高齢者のごみの回収の申し込み

理由さんあ〜るは、スマホアプリであり、身近で気軽に申し込むことが可能という利点を活用して、新しい機能をつけることはさんあ〜るのダウンロード数も増えると思うから。

→家族がいないスマホを所持していない高齢者はどうするのか。過疎化した地域にはヘルパーも少ないため、そこまで手がまわらないのではないか。

→高齢者や障害者がアプリを使って依頼するのであれば、難しいと思うので、もっと簡単に扱えるシステムが良いと思う。

→アプリだけでなく、電話でも依頼できるようにして高齢者への配慮も考える。

○ごみを回収する方は大変になるかもしれないが、体が不自由な高齢者のごみをヘルパーさんなどが出せる日（遅い時間でも◎な日）をつくる。

理由体が不自由な人のことを考えたことが無かったので、その人たちに寄り添いたいと思ったから。

○地域で助けあいというポスターを作ったり、1人暮らしの高齢者限定（若い人がいない家）でステッカーのようなものを作り、その家の近所の人を中心にあって助けあう。

理由高齢者は重いごみを持つことが困難だから、地域の人（若い人）などが協力するということが不可欠だと思うからだ。そのためには、地域内での交流を多くする必要がある。毎月〇〇日は、「地域そうじ」というような地域行事をつくるとなお良いと思う。

○困っている人がいることを地域の人に知らせてボランティアを募る。

理由私自身、勉強会に出席するまで、ごみ出しで困っている人がいることを知らなかったので、困っている今の状態を写真などを使って詳しく説明すれば、地域で協力してくれる人がいるのではないかと思い、提案した。

○私は、ボランティアや新しい仕事を増やして、ゴミ出しが困難な高齢者などに代わり、ボランティアの人などが高齢者宅の玄関先からゴミを捨てる場所まで運ぶ制度を提案したい。

理由1つ目は、無理なゴミ出しを続けることによって心身の負担になるとともに転倒による怪我のリスクが心配されることです。2つ目は、ゴミ出しができなくなるという状況です。ゴミが出せずに家にたまると住んで

いる環境が不衛生になり家がゴミ屋敷になる恐れがあるから。また、ボランティアの人が「こんにちは」など声かけをすることで高齢者とのコミュニケーションを図ることができたり見守りや安否確認ができるたりすると考えたから。

→ヘルパーなどを利用することができない生活苦の高齢者もいるので、特にボランティアを募る必要があると思う。